

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400527		
法人名	有限会社 アロー商事		
事業所名	グループホーム我が家 好間 こすもすユニット		
所在地	福島県いわき市好間町下好間字鬼越42-3		
自己評価作成日	平成27年2月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成27年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「我が家」のように共同生活でありながらも本人らしく笑顔で穏やかに安心して楽しく過ごして頂けるような環境作りと心配りを目指しています。
 ・利用者様、ご家族様とのかかわりを大切にしており「生き生き」と過ごして頂けるよう職員一同努めております。
 ・利用者様の希望を聞きながら季節の行事をおこみ、買い物やドライブ、自由食等を通して四季を感じたり地域との交流を深め、楽しみやストレスの軽減を努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームは、職員、家族、利用者の全員で作成してあげていくと考えている。ほぼ全員の家族が、行事に参加協力し、普段の訪問支援も多い。
 利用者がより良く過ごせるように、職員は試行錯誤して工夫して対応しており、落ち着いて生活していて、表情も明るい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が普段から目につくように理念を玄関・フロア・台所に掲示し、確認しあいながら理念の実践に向け努力している。	事業所の開設時に、職員が話し合い、基本の心を表現した。声掛けや支援の方法等、全てに通じている。職員は常に、お互いに声掛けしあい、基本を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りなどの行事には地域のボランティアの方々を招きアマチュアバンド演奏やカラオケ、踊り等を行い交流に努めています。また買い物や、ドライブ等で地域の方々とのおさやかな交流に努めています。	事業所の駐車場を、近隣人の避難場所として、提供して、地域の見守りネットワークに参加している。中学生の体験学習を受けいれている。日常の買い物は、地域のスーパーや商店を利用して、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を解放することで地域住民ボランティア等を積極的に受け入れるように心掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センターやご家族、地域代表の方に助言を頂きながらサービス向上に努めています。	利用者の日常生活や軽度の事故の報告をし、対応の検討をしている。家族からは、花見の場所の提案や、専門用語の質問等があり、利用者の理解が深まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員を受け入れ、開放的なホーム作りができるように努めています。	介護相談員にありのままの事業所を見てもらっている。包括支援センターの職員とは顔なじみで、いつでも相談して助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を実施し、再確認しあい身体拘束をしないケアに努めています。	事業所が国道に面しているので、玄関にチャイムを設置している。音には最大の注意をはらい、対応している。離床センサーを利用する場合は、期間を決め、家族の了解を得て実施している。体力低下が、事故につながるため、足腰の運動等を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士コミュニケーションを図ることで、メンタルケアをし未然に防ぐ努力をしています。また、定期的な勉強会を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等の参加はしているが、現在活用していない。今後必要になればすぐ利用できるように今後は管理者だけでなく一般スタッフも学ぶ機会を設けられるように取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には契約書・重要事項説明書等で十分に説明をし同意を得ている。また、疑問や不安な点がないかを尋ね理解して頂いた上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したりご家族様来訪時には近況報告をし情報を共有しています。	面会時に直接、家族から話を聞く事が多い。職員の顔と名前が一致しないとの意見に、来所者の目に付き易い壁に、全職員の顔写真と名前を掲示し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の業務ミーティングを開催し、職員の意見や提案を聴く機会を設けている。	管理者は、意見や要望を出し易い環境を作り、職員は、その都度気づいた事を、お茶休憩等の短い時間にも話し合い、共有している。夜間に尿量が多くなる等の意見に、オムツの大きさを変えたり、トイレ誘導の間隔を短くする等、工夫をしながら支援に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件等を整え職場環境の整備に努めている。代表者が随時職員とコミュニケーションをはかり、面談等で意見を求めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に合わせて外部の研修に参加する機会を作っている。研修後は報告書にまとめ情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会しており、研修会等で同業者との交流を図る機会を設けサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々との信頼関係を築くことで安堵できる環境を提供できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の想いや立場になって共感することで信頼関係を築きスムーズな情報共有ができるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様のニーズを中立的な立場で観て共に検討し必要なサービスが見出せるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりのニーズに合わせた支援をすることで共に支えあう関係作り、維持ができるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と交流できる場を提供し、家族様と本人様の絆が維持出来るように支援しています。面会に来訪しやすい環境作りや夏祭りや餅つき会などの行事に招待してます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にも協力して頂きながら馴染みの方々との関係が維持出来るように努めています。	家族と共に、法事に出席したり、職員の介助で、孫の結婚式に参列する等、家族との繋がりを大切にしている。昼食後に家族の迎いで、外でのティータイムを楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介に入りながら利用者様同士がスムーズにコミュニケーションが取れるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も必要に応じて相談・助言ができるように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々や家族様とコミュニケーションを取りながら日々の生活をどのように望まれているか、その都度検討し望まれる生活が送れるように努めています。	テレビの音量・入浴順など、利用者の日々の要望を丁寧に聞き取り、業務日誌で全職員が共有している。伝えるのが困難な利用者には、日常生活の中で、表情・行動を丁寧に見守り、思いを汲み取り、支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当初のアセスメントを活用したり今までの生活背景等を聴き出し把握に努め、継続して頂ける様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録・バイタル表や排泄表を設け又、業務日誌等を活用し、職員や医療機関との情報の共有を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を中心にモニタリングを行い、会議等での意見交換情報を共有することで今後の介護計画に反映できるように努めています。	モニタリングの為、3ヶ月毎に居室担当者を変えている。全職員が、利用者の日常を多面的に把握し、支援に繋がるよう工夫している。家族からの意見や要望を取り入れ、現況に沿った介護計画作りを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員一人ひとりが利用者様に目を向け情報の共有をしながら業務日誌等でケアが途切れないように支援することでスムーズな見直しができるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変な対応ができるように職員同士がコミュニケーションを取りながらニーズに合わせた支援ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し意見交換をすることで皆が支えあえるホーム作りができるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関の往診があり、常に医療機関と連携がはかれるように努めています。	連携病院から、24時間の対応を受けている。利用者全員の、顔写真つきのカルテを作成してもらい、いつでも相談や、助言を受けている。夕方には訪問往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用し常に医療機関と情報を共有し迅速な対応ができるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関・ご家族様・ホームが共に情報の共有が出来るように、ホームが懸け橋的な役割を果たせるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様との連携を密に取り医療機関に助言をして頂きながら家族様の意向を確認し今後の対応について家族様・病院・ホームが共に検討していくようにしています。	希望するところで最期まで過ごすように生活してもらい、利用者本人や、家族とくり返し話し合いをしている。みんなが納得できる最期を迎えられるように、職員は研修を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設け又、定期的にホームで普通救命講習会を開催したり緊急時の対応についての勉強会をし事故発生に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署立会いの下避難訓練を実施しています。反復練習をすることで災害時に備えたいと思います。また地元の消防団の方々に施設内を見学して頂いたり、災害時の協力体制の情報共有をしています。	スプリンクラーやAEDを設置している。夜間想定訓練は実施して体で覚えるように、繰り返し訓練している。地元の消防団に間取り図を渡し、事業所を見学してもらい、協力を依頼した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	とても難しい課題で常に冷静を保ち受け手の立場で考え個々に合わせた声掛けをするように努めています。	職員は、利用者一人ひとりの合図や動作等を、見逃さずに受け止め対応している。排泄管理表を利用し、できるだけ失敗させない支援を工夫している。言葉が出なくても、選ぶ機会を作り、意思を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	はいとかいいえと答えられる質問形式にしたり本人の考えを代弁できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	メリハリのある生活を基に本人のペースに合わせて支援が出来るようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をされる方はいませんが、明るい色合いを好まれる利用者様が多いので着替えの際希望を聴きながら「その洋服素敵ですね」と声をかけたりしながら一緒に選んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきの手伝いや食事中の会話を通し食への楽しみが増すよう支援している。また茶碗拭きの手伝いや盛り付けの手伝いをして頂いています。	月1~2回、外食や弁当を利用して、目先を変えている。おやつには、利用者の希望を取り入れている。飲み物も、自分で選べ、盛り付けや、食器の後片付け等の手伝いをする利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量についてチェック表に記入し一日のトータルが把握できるようにし不足の際は好みの物や栄養補助食品の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に応じた対応を行い口腔ケアを実施し口腔内の清潔保持に努めている。また、夕食後は義歯を預かり消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に応じたトイレ誘導を実施している。失禁なく排泄出来た時など喜びも共に分かち合いながら自立支援に努めている。	排泄・水分チェック表を基に、個々の状態に応じ、声掛け・誘導によるトイレ介助を行っている。オムツ利用者も職員2人の介助で、トイレでの排泄を促している。失禁予防や、足・腰の運動の為、誘導間隔を短くする等の工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂取したり、こまめに水分を摂ることや軽運動を行う事で便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を活用し体調に考慮しながら、本人の想いを尊重しながら声かけし実施しています。個々に合わせて一般浴と機械浴を併用し実施しています。	利用者の状態・希望に応じ、時間帯や入浴剤を変える等、工夫をしながら支援に繋げている。困難な利用者にも、声掛けや、日時を変更する等、気分転換を図りながら、気持ち良く入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安の解消をしながら安眠できる環境作りをしています。一人ひとりのライフスタイルに合わせた生活の実現を支援できるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セットや服薬前のそれぞれにダブルチェックを実施し服薬事故の無いように努めています。またいつでも処方箋が確認・閲覧できるようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの利用者様の生活歴や性格を考慮して役割や行事などのイベントも組み合わせや内容を工夫して楽しんで頂き、気分転換をしていただけるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敬老会の招待チケットや紅葉や桜や海など四季の移り変わりを感じて頂けるような外出支援を行ったり外気浴や買い物などに出かける事が出来るように支援しています。	日常的には車を利用し、近くのスーパーやホームセンター等へ行っている。月1回は遠出をし、外食をしたり、花見・七夕・演劇鑑賞等、地域の人と交わりながら、外出を楽しめる様支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金をホームで管理していますが、必要や希望に応じて一緒に買い物に行ったりする機会を作り支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が不安になった時などはご家族様に協力して頂き、自由に電話など会話できる環境を作り支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに季節にあった装飾を行ったり、利用者の写真や書かれた書道を飾ったりしています。	室内は清掃が行き届いている。明るく広々とした食堂は、テーブルやソファがゆったりと配置されており、テーブルには利用者一人ひとりの名前が書いてあり、気の合った利用者同士が隣り合い、落ち着いて暮らせる様工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格面を考慮して会話が出来るように席の配置を意識したり、ソファスペースを設け自由に利用できるようしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	清掃は決められた曜日に実施しており、居室は利用者様が過ごしやすいように家具の配置等は安全を考慮しながら本人の希望を聴いて実施しています。	家族の協力を得て、使い慣れたタンスやイスが持ち込まれ居室担当者が中心になり、整理整頓がされている。利用者一人ひとりの状況に応じ、ペット周りの壁紙の色を変えたり、家具を固定したり等、安心して暮らせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分のお部屋を認識しやすいようにプレートを設置しています。本人が戸惑いなく生活出来るように努めるとともにリスク管理を行いながら安全に自立に近い生活が送れるように配慮しています。		